

まず！やってみる！新聞

笠岡市議会議員 NO.8
守屋もとのり
2026.4.10 発行
090-5374-1333(守屋)

笠岡市の令和8年度予算を可決！

1. 予算規模

総額：448億3,439万円（前年比△7.4%）一般会計：249億8,980万円（△9.2%）

2. 基本方針（第8次総合計画 初年度）

将来像 「対話・協調・連携で築く、夢と笑顔が広がるまち」

スローガン：「カブトガニをシンボルとしたまちづくり」

→カブトガニ未来創生プロジェクトを推進

笠岡市の記者
発表資料まとめ

3. 主な新規・拡充事業（体系別）

暮らしを支える（77億円）

企業立地促進奨励金（大規模工場誘致）

中小企業伴走支援（DX・専門家派遣）

ガラモ場（藻場）整備

ベifaharm再整備（基本計画）

認知症早期発見（セルフチェッカー）

住宅リフォーム助成

（上限拡大・物価高騰対策）

まちを整える（56億円）

まちなみづくり支援

航路改善計画策定

離島航路維持補助金

（対象外区間の赤字1/2補助）

高齢者タクシー助成

（上限撤廃・マイナンバーカード活用）

地域の移動支援（地域主体の車両運行）

臭気対策（測定の可視化・資材補助）

子どもを守り人を育む（61億円）

医療的ケア児保育支援

不妊治療費助成

小学校チーム担任制の加配

放課後児童クラブ2人目以降無償化

子ども医療費：高校生まで通院も無償化

小学校給食費無償化

中学校給食食材費補助（物価高騰対策）

電子図書館導入

部活動の地域展開

（コーディネーター配置）

横断的施策（20億円）

オープンイノベーション導入

（課題解決の実証）

新庁舎建設準備

情報発信スキルアップ（SNS強化）



4. カブトガニ未来創生プロジェクト

5. 全体の特徴（まとめ）

総合計画初年度として編成

子育て・教育分野の負担軽減が大幅に拡充

航路維持・移動支援など地域交通の持続性を重視

物価高騰対策を複数事業に組み込み

カブトガニを軸にした環境・観光・地域愛の醸成

これらの施策を中心的に実行するのは市職員である。この予算の審議の間、3月19日には人事異動の内示が出され、その内容に唖然とする所が多々あった。個別には触れないが、課長・係長級の職員在籍1年の異動。重点施策と位置づけられている部署の課長・担当者の異動も見られた。職員の働く意欲をそぐ内容が散見される人事。係長級の職員の中途退職が増加する傾向の中、抜本的な人事政策が求められる。

後援会ホームページ



各種行事の情報は！
「よし今だ新聞」



楽天本社にて研修会

ふるさと住民登録制度

横浜創英中高等学校 オープンスクール

次期学習指導要領に向けた教育実践

1月15日・16日

研修・視察報告

佛子園は、障害・高齢・子育て・生活困窮などの縦割りを超え、地域全体を巻き込む「ごちゃまぜ」の共生モデルを石川県で実践している。Share金沢や輪島KABULETでは、空き家活用や多機能拠点の配置により、誰もが自然に交わる生活環境を創出。福祉とまちづくりを一体で進め、移住促進や地域経済の循環にも寄与している。災害時には地域の拠点として早期に日常を取り戻す力も示し、全国的に注目される先進事例となっています。

社会福祉法人佛子園を視察



2月27日・28日



3月8日、島の大運動会2.0と題して、マルシェと島ミライ会議が開催されました。午後からの会議では「若者に選ばれる地域とは」のテーマで、海社インターンOBの椿さん講演と、現役・OB協力隊がテーマに沿って意見交換しました。若者が活動しやすい地域って常に何か考えて実践している、動きが見える地域かな。



何が見えるかな？

北木島で3月20日・21日でドローンマッピングパーティが開催され「丁場湖」を地図に書き込むイベントでした。写真は（株）パスコの方によりカメラ付きのドローンを飛ばして島になった気分で見えています。北木島の日本遺産おもてなし隊の面々も興味津々で童心にかえって歓声が上がっていました。

久々の島への長蛇の列



国の臨時交付金を活用して、島への運賃無料DAYが3月29日に開催され、大勢の方が島へ渡り、休日を満喫されました。今回は、六島航路と北木・白石のフェリー航路が対象で積み残しが出るほどの大盛況でした。六島では六島ビールの7周年イベントも同時開催され、多くの方が訪れていました。全6回の予定。

3月議会一般質問 3月9日(月)

2月20日開会で令和8年第1回笠岡市議会定例会が開会され、3月補正予算・令和8年度予算についての審議が行われました。私は3月9日(月)に一般質問の最後の登壇で以下の項目の質問を行いました。今回は議事録をAIを使って要約しています。

① 市内公立高校再編について

- (1) 県立高校再編に伴う県との協議の進捗状況について
- (2) 再編の話し合いの中で見えてきた課題について
- (3) 今後の本市としての取組について

私の主な問題意識

3校再編に向け、市としての関わり方が弱いのではないかと
高校間連携をコーディネートする主体が必要
真庭市のように、地域企業を巻き込んだ再編支援組織の可能性を問う
地域学(探究学習)を小中高一貫で強化すべき

血 市の答弁

県教委主導で6回のプロジェクト会議を開催
新校では「笠岡ならではの学び」を重視
市の窓口は企画政策課に一本化(2024年1月~)
地域企業との連携は必要だが、真庭市のような基金組織の設立は現時点で言及せず
コーディネーター配置は高校側が基本、市独自配置は慎重
小中高一貫の地域学は期待するが、高校は県立のため連携の範囲に限界

② 地域運営組織(小規模多機能自治)について

- (1) 今後の地域運営組織の再編の見通しについて
- (2) 「対話と協調」の精神で、市民を交えて協議する「市民会議」のような取組を進め、市民協働で仕組みを構築する必要性について

私の主な問題意識

小規模多機能自治の概念が市民に浸透していない
ガイドラインを市が一方向的に示すだけでは理解が進まない
福井県坂井市のように、市民代表を集めた「協議の場」を設けるべき
平成21年から議論が進まない理由を問う

血 市の答弁

令和8年度を「制度設計とモデル構築の元年」と位置づけ
地域の意思決定を一元化する組織への移行を目指す
市民会議のような全市的協議体の設置予定はなし
地域の課題は地域ごとに異なるため、まずは地域内で議論すべき
役員の重複や担い手不足解消のため、組織集約は必要
会長・事務局への報酬支給も検討

③ 笠岡諸島の航路再編について

- (1) 市は補助航路ではない部分の赤字補填2分の1を発表、笠岡諸島への公共交通の現状と赤字補填を決定するまでの経過について
- (2) 笠岡市離島航路改善協議会のメンバーについて、観光関係者等の委員の選考はどのように考えられていますか。
- (3) 笠岡市の今後の航路への対応について

私の主な問題意識

補助対象外赤字の「市の2分の1補填」決定が急すぎる
航路改善協議会の委員が島民代表のみで偏っている
観光事業者など収益に関わる主体も入れるべき
航路一本化の進捗を確認

血 市の答弁

事業者から「撤退の可能性」発言があり緊急対応として補填を決定
県は来年度予算化せず
協議会委員は「生活航路」であるため島民代表が適切
一本化は協議中で詳細は答えられない

④ 産業振興・市民所得向上について

- (1) 岡山県の1人当たりの県民所得が全国44位と地域経済の稼ぐ力が弱まっていますが、本市の市民所得、県内ランキング等の現状について
- (2) 本市としての市民所得を向上させるための施策について

私の主な問題意識

岡山県の県民所得が全国44位と低迷
原因分析(エビデンス)が必要
市の施策はシステム導入だけでなく、現場の経済感覚を捉えるべき

血 市の答弁

笠岡市の市民所得は234.4万円(県内9位)
県民所得低迷の要因は製造業の落ち込みなど
市内事業者の8割が小規模事業者であり、賃上げには経営改善が不可欠
新たに「中小企業伴走支援補助事業」を開始
商工会議所+金融機関+専門家の連携チーム
財務分析・価格転嫁支援・経営改善を強化市民所得向上につなげる

※このほかに「観光行政について」の項目も質問、令和8年度から観光協会に観光・ものづくりのエキスパートを1200万で雇用し、攻めの観光行政を進めるといふ。
「ふるさと住民登録制度」についても提案し、検討して行く旨回答をいただきました。

今回の裏テーマは「対話」財政健全化も、地域課題も、対話なしには前に進まない。職員と市民の間に不信感が生まれぬよう、「聞く」「許す」を両輪とした対話の文化を行政に求める。

シリーズ「まちづくり考」⑨ 子ども主体のまちづくりの挑戦



大井まちづくり協議会で新しい取り組みが令和8年度から実施されています。事業名は「おおいっ子夢チャレンジ」といいます。子ども主体のまちづくりを考えるというコンセプトで、これまでのような子どものために大人が準備して、お客さんのように遊んで帰るのではなく、地域の

の事を知って、地域の大人とも交流する仕組みづくりです。地域の子もたちに「何かしたい!」「将来の夢」などを自由に出し合って、それを1年がかりでみんなで応援するというものです。

夢を実現するためには3つのステップがあるとされています。

① やりたいこと”言う”

言わないと誰にも伝わりませんし、夢は始まりません。

② 誰かに”助けてもらう”

ひとりの力ではなかなか実現しません、周りの人に助けてもらうことで、できる事が広がります。

③ ”諦めない”

失敗したり、うまくいかなかったりすると、心が折れそうになります。

でも、そこでやめてしまったら、夢には近づけません。

地域の大人が子どもたちを同じ地域の将来の担い手として「楽しく関わる仕組みづくり」の挑戦だと思っています。

第1回のプチ夢会議が4月4日に開催され、貼り切れない多くの「何かしたい」とう子どもたちのメッセージで溢れました。

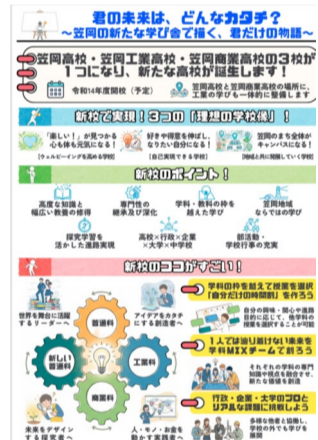


地元高校生もサポーター役で参加

市内県立高校3校再編中間報告

昨年4月から進められていた公立高校再編の中間報告が3月に発表されました。その内容は以下のとおりです。

笠岡高校・笠岡工業・笠岡商業の3校を再編し、**令和14年度開校を目指して**新たな高校を設置する。普通科・工業科・商業科に加え、**探究を軸に未来をデザインする「新しい普通科」**を新設。笠岡高と笠岡商の両校地を一体整備し、**ウェルビーイング・自己実現・地域共創を学校像**に掲げる。学科を越えた科目選択や地域資源を活用した探究学習、大学・企業との連携により、多様な進路に応える教育を展開する。



離島航路再編について (問題点と展望)

新年度予算で離島航路補助に加えて、離島航路事業者への新たな補助が予算化されています。離島航路補助については、単独事業者が運航する航路については赤字補てんされています。この度の補助金は、北木・白石航路で3社が競合する航路にも関わらず、1社に限り、離島航路事業者ということで赤字の1/2補助を予算化しています。他のフェリー2業社からすると公平性に欠けると申し入れ書も出されています。市は以前から3業者の統合の可能性を探っており、フェリー2業者についてはその協議のテーブルにも着かないというのが理由のようです。しかし、1社だけの航路改善計画を作るのではなく、3社による再編をこの機に進め、離島航路の持続性を担保して欲しい。

編集後記

3月議会が終わり、新年度を迎えあらためて「初心忘るべからず」という心境です。何となく！すでに市議会議員4年任期の半分が終了しました。議会の独特の雰囲気慣れてきました。相談事もいろいろと多岐に渡ってきました。スグには解決できないことも多いので、とにかく市民の皆さんからの声に真摯に寄り添うという思いで、一つ一つの案件に対応させていただいています。

専らの市の課題として感じているところは、まちづくり協議会の再編です。これから人口減社会に入り、益々地域の自治力が問われるなかで、行政と地域との役割分担を明確にし、地域のマンパワーを総動員で対応しないと、生き残っていけないと言っても過言ではありません。全ての人が自分事として考える地域づくりを実践したいと思います。終わりに、昨年末に待望の「初孫」が誕生しました。とにかく可愛い。孫の世代まで将来を見据えた、持続可能なまちづくりの実践を今後も継続的に進めて行く事をお約束したい。

